

千葉県認知症多職種協働研修 運営マニュアル

平成 26 年 3 月
千 葉 県

目次

第1部	はじめに	ページ
第1章	はじめに	1
第2章	多職種協働研修の趣旨及びプログラム	1～4
第2部	研修の運営	
第1章	研修の企画	5～7
第2章	対象者、対象関係機関等へ広報周知	8
第3章	事前準備	9～10
第4章	研修当日の運営	11
第5章	研修の評価	11
第3部	資料編	
1	募集要項	13～14
2	案内チラシ	15
3	受講申込書	16
4	受講決定通知書	17
5	研修プログラム	18～19
6	次第	20
7	受講者名簿	21
8	関係者向け進行表	22
9	受講者用アンケート	23～24
10	本研修の作成経過等	

第1部 はじめに

第1章 はじめに

【研修運営マニュアルの目的】

本マニュアルは、「認知症多職種協働研修プログラム」教材を活用し、研修の運営を計画している方を対象として、研修を効果的かつ効率的に実施できるように、研修の目的、概要についてまとめ、企画・準備段階から当日の運営及び事後のフォローアップまでの流れに沿った手順を示したものです。

第2章 多職種協働研修の趣旨及びプログラム

【多職種協働研修の背景と必要性】

1 多職種協働が必要な理由

認知症の人と家族への支援の質の向上のためには、各職種間の円滑な連携が不可欠であり、その第一歩として、多職種が顔を合わせ、お互いの役割等を理解し、課題を共有できるような機会を設けることが必要です。

また、初期から終末期まで継続的で一貫した支援を行うためには、多様な機関・職種が関わり、多様な地域資源を活用する必要があることについて各々が理解する必要があります。

そこで、千葉県認知症対策推進協議会専門職研修作業部会の下にワーキンググループを設置し、多職種協働を促進するための研修体系及び研修プログラムについて検討、作成いたしました。

2 多職種協働研修の目的

認知症の人と家族の支援に携わる専門職に対し、多職種協働の『意義の理解』及び『必要な技術』の習得を図るとともに、連携構築のための『場』と『機会』を提供することです。

研修プログラムの作成に当たり、各専門職が認知症の人や家族の支援等の場面において、どのような困難に直面し、どのような問題意識を持っているかを把握するために、認知症専門職研修作業部会を構成する職能団体の協力を得て、各専門職に対するアンケート調査を実施しました。

(平成24年度実施、対象者：医療・介護・福祉専門職 2,200名、回答数 785名、回答率 35.7%)

その結果、認知症の人の治療やケア、生活支援、また家族支援などの業務において、約7割が「困難」又は「非常に困難」と感じています。また、他機関・

他職種との連携の有無については「よくある」「ある」が 45.5%、反面、「ほとんどない、全くない」は 23.3%となっています。

また、他機関・他職種との連携が円滑にできた事例についてその理由をたずねたところ、日頃からコミュニケーションをとりお互いの役割を理解していたことなど、お互いの機関・職種の理解（相互理解）、日頃の関係づくり、情報を共有していることに関する意見が多い結果となりました。

一方、連携の必要性は感じているが現状はできていない理由としては、「体制不備」「機会がない」という回答も多くありました。

そのため、この研修の特色としては、ただ顔見知りになるだけではなく、医療・介護・福祉の認知症支援全体の流れを理解した上で、グループワークを取り入れ、自分の専門性・役割を相手にわかりやすく伝え、専門職がお互いの役割を理解して役割分担やチーム支援を促進していく構成となっています。

【研修プログラム】

1 概要

(1) 日程

知識・技術等の習得より、「顔の見える関係づくり」が大きな目的であること、また職種によっては長期にわたる研修が困難であることから、研修期間は1日程度としています。

(2) 構成

プログラムは、次の三部構成としています。

①多職種協働の意義と研修の目的<講義形式による座学>

②認知症の進行に伴い起こり得る課題と専門職の関わり

<講義形式による座学>

(認知症の治療とケアにおける様々な課題と、各職種の関わりの共通理解)

③各職種連携の方法<グループワークによる演習>

(多職種協働の意義の理解、互いの役割・専門性の理解、適切な役割分担)

※③を中心に、②は補足的に行う。

また、③については、事例を活用したグループワークによる演習形式を中心とし、実践的な学びと関係づくりの場とする。

(3) 内容

図表1 プログラム内容

課目	内容	時間	形式
オリエンテーション	研修目的の説明	30分	講義
医療との関係	認知症の発症から終末期にかけて、医療職が関わるそれぞれの場面と円滑な医療の提供	50分	講義
生活支援	認知症の人と家族の生活や生き方を支える社会資源の理解と自律性の保障	50分	講義
連携のあり方	事例に基づく連携方法の確認	165分	グループワーク

2 多職種協働研修プログラム

目的						
認知症の人と家族の支援に携わる専門職に対し、多職種協働の意義の理解及び必要な技術の習得を図るとともに、連携構築のための「場」と「機会」を提供する。						
講義	時間	課目	時間配分	内容	具体的習得目標	説明ポイント／GWのテーマ
①	9:30 ～ 10:00	オリエンテーション	30分	オリエンテーション 研修目的の説明	研修の目的について理解する。	・本研修の目的(習得目標)等について、具体的に伝え理解してもらう。 ・多職種協働で行うためには、各職種の専門性を理解し、コミュニケーションがスムーズにとれるよう共通言語化を促進する。
②	10:00 ～ 10:50	医療との関係(講義)	50分	認知症の発症から終末期にかけて、医療職が関わるそれぞれの場面と円滑な医療の提供	①早期発見におけるかかりつけ医・サポート医・専門医(認知症疾患医療センター)の役割りと連携について理解する ②入院時における多職種協働について学ぶ ③地域生活期における医療の関わりについて理解する ④終末期・看取りについて学ぶ ⑤菌科的な介入は初期(発見時)に重要となることを理解する ⑥服薬管理と服薬支援について学ぶ	①かかりつけ医・サポート医・専門医(認知症疾患医療センター)それぞれの役割り分担により、初期症状の発見・鑑別診断・治療方針の決定を行い、その後の行動・心理症状や身体合併症の発症・悪化時での医療連携につなげる。 ②・精神科専門医や精神科病院の関わり ・急性期医療の提供・急性期病院および回復期リハ病院での精神科医、臓器別専門医、認定看護師、リハ職の関わり(入院に伴う精神症状を重症化させないケア・リハビリの実践・提供) ・転院や早期退院支援におけるMSW・退院調整看護師・リハ職等の関わりおよび療養環境の調整を目的とした多職種合同カンファレンスの開催 ③・地域生活期におけるかかりつけ医の関わり方およびリハ職の関わり ・在宅医療を行う医師・認知症に対応できる専門医による住診・訪問看護職・訪問リハ職の関わり ④・その人らしさを尊重した看取りについて ・認知症発症前に事前意思表示しておくことの重要性についての啓発 ・認知症高齢者の意思決定支援のあり方 ⑤・良好な口腔内環境により、食の楽しみを保つことの重要性 ・口腔ケアの見守り、初期からの関与、状態の悪化を見込んだ治療計画の必要性 ⑥・かかりつけ薬剤師および訪問薬剤師の関わり ・服薬管理、服薬支援 ・お薬手帳の活用
		休憩	10分			
③	11:00 ～ 11:50	生活支援(講義)	50分	認知症の人と家族の生活や生き方を支える社会資源の理解と自律性の保障	①認知症の本人に合わせた適切なケアの視点について理解する ②地域における本人を支える専門職の役割りや社会資源について学ぶ ③家族支援と専門職等の関わりについて学ぶ	①認知症の本人に合わせた適切なケアマネジメント・環境調整の視点と各職種の関わり ・認知症の人のケアマネジメントにおいては、関わる支援者(家族も含む)はチームを作り、利用者本位の基本的な考え方と視点を共有する ・家族も支援者となっていくように支援をする ・変化にあわせた関わりや支援が自律および生活の質(QOL)の向上の前提となることを理解する ②地域で支える視点を持ち、本人の生活全体・人生全体を意識した関わり(これまで馴染んだ地域に協力を促し、個別の生活支援マップ作成等の意義を知る) ・介護保険法、障害者総合支援法、後見制度、認知症支援事業の概要と活用方法 介護や福祉等の専門職や支援機関(市町村、地域包括支援センター、コールセンター、福祉ふれあいプラザ等)、見守りなどのインフォーマルサービスの関わり(活用時には本人に向き合い、本人の声を聞き、的を射た支援につなげていく) ③家族支援と各職種の関わり ・家族の思いを理解する。 ・家族が状況を認識し変化させることができるよう支援する。 ・地域交流等へ参加など、仲間づくりがストレス軽減につながり課題に向き合うことができる。
	11:50 ～ 13:00	休憩	60分	昼食・休憩		
④	13:00 ～ 14:15	連携のあり方グループワーク(自己紹介時間15分を含む)(前半)	75分			
		休憩	15分	事例に基づく連携方法の確認	事例を通し、連携のための情報共有の方法、地域連携に必要な公的制度の活用、本人や家族を中心とした連携等、具体的な連携方法を学ぶ	・モデル事例を基に、各職種の「気づき」や情報の共有、制度・地域資源の活用、役割り分担について考える。
⑤	14:30 ～ 15:30	連携のあり方グループワーク(後半)	60分			
⑥	15:30 ～ 16:00	連携のあり方グループワーク(発表・まとめ)	30分			

計 295 分 (休憩、昼食時間を除く)

第2部 研修の運営

第1章 研修の企画

1 研修概要の検討

本研修の目的は、認知症の人と家族の支援に携わる様々な専門職同士の顔の見える関係づくりの機会と場を提供することを目的としていることから、研修受講者は認知症の人と家族の支援に携わる全ての専門職を対象に、幅広く募集することが重要です。

なお、研修受講に当たっては、参加者自身の職種に必要な認知症の治療やケアに関する基本的知識等について習得していることが望ましい内容となっています。

本研修に含まれる課目を図表1に示します。授業時間の合計は、約5時間程度であり、途中の休憩と昼休みを含め1日程度のプログラムとして開催することが望ましいと考えます。

本カリキュラムは、「連携のあり方」をグループワークにより実施することを考慮して定員の上限を定めます。

開催時期や曜日、場所について、各専門職が出席しやすいように調整します。会場の要件について、図表2に示します。

図表2 会場の要件

項目名	研修実施に係る条件
会場の広さ	<ul style="list-style-type: none">・定員に応じたグループワークの実施が可能であること。・可動式の机、いすが設置できること。
機材等	<ul style="list-style-type: none">・教材は、パワーポイント 2003 を使用している。・講師プレゼンテーション用パソコン、スクリーン、プロジェクター、レーザーポインタ、マイク（講師用、受講者用）の使用可能望ましい。

各課目の講師及びグループワーク時のティーチングアシスタントを選定、依頼します。グループワークにより実施する「連携のあり方」は、受講者のファシリテートを行うティーチングアシスタントが必要です。1名で2～2.5グループ程度を受け持つことが可能ですが、各グループに1名配置することが望ましいでしょう。また、ティーチングアシスタントの配置人数は、ティーチングアシスタントの職種、支援スキル、各グループ受講者の人数、職種、所属先、経験年数等を検討の上、決定します。

次に、講師の要件を下記に示します。

講師とは、研修企画時の早い段階で研修の狙いや想定される受講対象者、謝金等について打ち合わせや相談を行い、依頼文書を送付します。

<講師の要件>

(1) 共通事項

- ①多職種協働を円滑に進めるために専門職として必要な知識や適切な対応方法及び多職種協働の意義に関する知識技術を習得している。
- ②認知症の人と家族の支援や地域生活を支えるための地域連携体制の構築活用に従事又は協力している各専門職

(2) 課目別講師要件

図表3 課目別講師の要件

課目名	要件
オリエンテーション	企画運営に携わったスタッフ
医療との関係	認知症の人と家族の支援に携わっている医療職
生活支援	認知症の人と家族の支援に携わっている介護・福祉職
連携のあり方	認知症の人と家族の地域生活を支えるために地域で連携づくりに従事している専門職

(3) 講師の例

認知症コーディネーター※1、「認知症専門職研修体系構築事業」※2における指導者対象研修修了者、認知症サポート医、認知症認定看護認定看護師、認知症専門作業療法士、認知症介護指導者、認知症地域支援推進員など

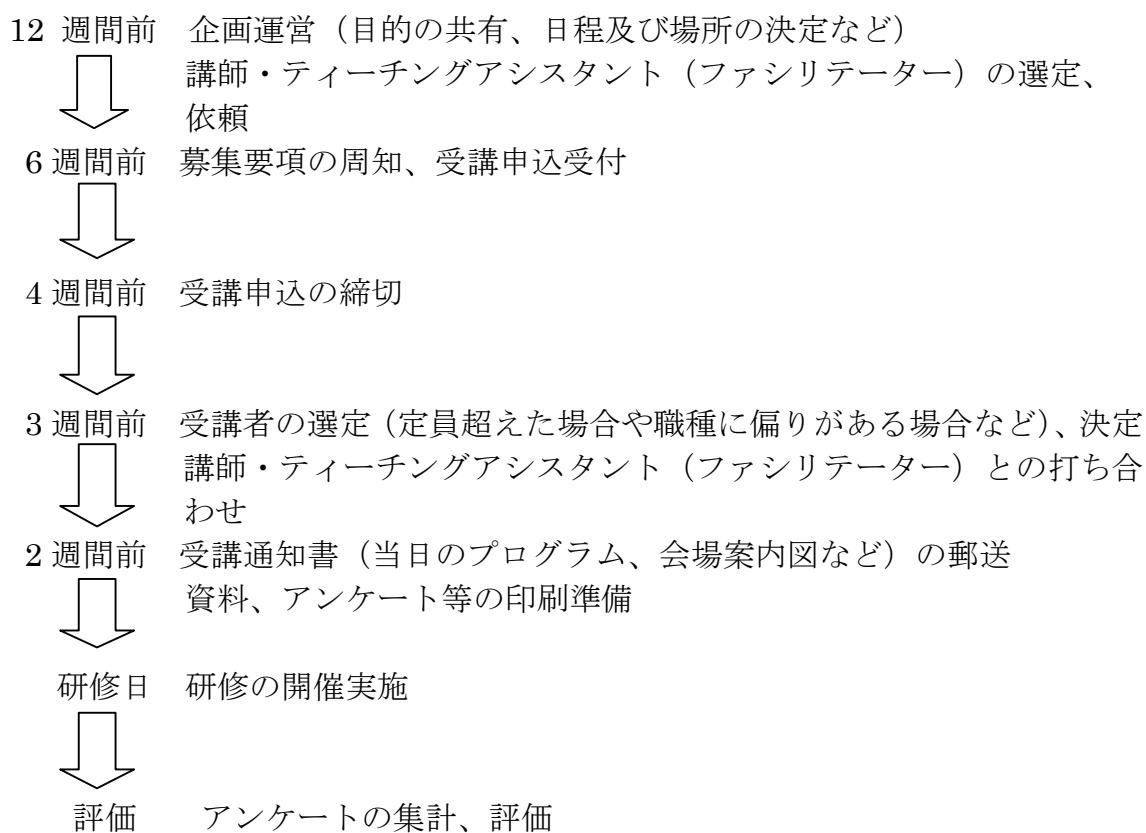
※1：千葉県が定める認知症コーディネーター養成研修プログラムを受講し修了した、認知症の人と家族を支援する専門職の支援者

※2：医療、介護、福祉等の各専門職において、認知症の人と家族を支援するための力量の向上を目的とした研修体系の構築事業で、初心者、中堅者、指導者向け研修プログラムを作成、研修を実施。

2 研修運営チームの結成

研修運営に携わるメンバーを決定します。特に、研修当日には、受付事務、講師対応、研修の司会進行など様々な役割が発生し、少なくとも3名の運営担当者は必要です。場合によっては、ティーチングアシスタントに研修運営を依頼することも考えられます。

3 スケジュール



第2章 対象者、対象関係機関等へ広報周知

【募集要項の作成、配布】

募集要項（研修のチラシ）を作成します。募集要項の例を第3部資料編に、掲載しています。申込書には、所属、職種、認知症支援の経験年数等の情報を把握できるようにすると効果的なグループ分けに役立ちます。

地域で、認知症の人と家族の支援に携わっている専門職が所属している職能団体や関係機関等へ開催通知、募集要項を配布し、開催の広報周知を行います。

既存の認知症支援に関する連絡会、協議会がある場合は活用して周知を実施するとよいでしょう。また、自治体のホームページや広報の活用の外、これら専門職を対象とした会議の場での周知も考えられます。

申込が一つの専門職種に偏ってしまつては、研修の目的が達成できないので、あらかじめ医療職、介護・福祉職の募集人員バランスを想定して対応します。

【申込・受付事務】

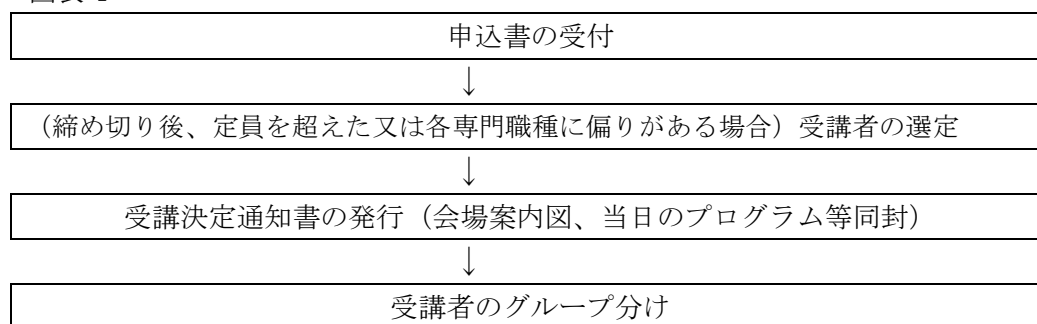
研修の申込み、受付事務フロー図を図表4に示します。

締め切り後、定員を超えている場合は各専門職のバランス等に配慮し選定します。

また、定員は超えていないが申込者の職種に偏りがある場合は、少ない職種の参加を促すため関係団体等へ協力を依頼するとよいでしょう。

受講者を決定後、受講決定通知書を送付します。その際、留意事項、プログラム、会場案内図等を同封します。

図表4



【受講者のグループ分け】

<連携のあり方>については、グループワークにより研修を実施しますので受講者のグループ分けを行います。

1グループの人数は、多職種での意見交換が実施しやすい5～6名とし、医療職と介護福祉職の職種に偏りがないようバランスに配慮します。

また、各グループにティーチングアシスタント（ファシリテーター）を配置します。

第3章 事前準備

【講師・ティーチングアシスタント（ファシリテーター）との打ち合わせ】

講師・ティーチングアシスタント（ファシリテーター）等との打ち合わせを実施します。

受講者の職種や背景、地域の認知症支援の取り組み状況など、当日の進行や会場到着時間、交通方法などを確認します。また、グループ分けについて助言をもらい、ティーチングアシスタント（ファシリテーター）の配置を検討します。

【研修資料の作成】

研修に使用する各種資料を用意します。

研修プログラム内容に応じた教材を作成しておりますので、活用をお願いします。

なお、教材「生活支援」スライド No26 は、開催市町村で取り組んでいただいている認知症支援事業をいれていただくように作成してありますので、編集をお願いいたします。

例：認知症予防に関する健康教育、認知症に関する相談事業、認知症サポーター養成講座の開催、家族会の開催など
--

また、事例は、「都市地域に住む D 子さん」事例と「農村地域に住む T 子さん」事例の 2 事例を用意してあります。どちらか 1 事例を地域の特性に応じて選択してください。

研修に必要と考えられる資料・機材等を以下に示します。
事前に、研修会場を下見して設備の有無について、最終的な確認を行います。

- 机
- いす
- プロジェクター
- パソコン（パワーポイント対応）
- 電源確保用コード類
- レーザーポインター
- スクリーン
- 研修に使用する教材一式（教材パワーポイント資料）×受講者数分
- 受講者名簿×受講者数分・受付用
（申込書にあらかじめ配布することについて同意の可否を明記し、同意のある者のみ配布名簿として作成する）
- 座席表×受講者数分・受付用
- プログラム（次第）×受講者数分
- 受講者アンケート票×受講者数分
- 筆記用具
- 名札（受講者数分）
- グループワーク時のワークシート1（個人シート）×受講者数分
- グループワーク時のワークシート2（グループ用）×グループ数分
- 研修進行表（関係者向け）×関係者数
- 会場案内図（看板等の張り紙など）

第4章 研修当日の運営

【研修運営】

(1) 会場設営について

- ・受講者用いすと机の配置

講義部分は、学校形式での設営、グループワークは午後を実施するので、昼休み等にグループ形式にします。グループ分けがあるため、座席指定とし、受付時に受講者へお知らせをします。

- ・プロジェクター、パワーポイント対応パソコン、スクリーンの設置
マイクの準備を行います。
- ・講師用の机、いすの配置を行います。
- ・受付（座席指定について、各受講者に案内をします）、資料配布の準備
を行います。

(2) 運営担当者の役割分担

- ・司会、受付、プロジェクター操作、講師接待等役割を分担します。

司会担当者は、配布資料の確認、研修当日のスケジュール、研修会場内の設備（立ち入り禁止場所、喫煙場所、会場内における飲食等）について確認をお願いします。

(3) アンケート票の配布・回収について

資料と一緒に、受講者向けアンケート票を配布します。

受講終了後に、アンケート票に記入をしてもらい提出してもらいます。

第5章 研修の評価

研修終了後、講師、研修運営担当者から感想・意見を伺います。

これらと、受講者からのアンケートを集計し、研修実施の評価を行い、次回以降の開催に向けて、研修計画に反映させます。

第3部 資料編

- 1 募集要項
- 2 案内ちらし
- 3 受講申込書
- 4 受講決定通知書
- 5 当日プログラム
- 6 次第
- 7 受講者名簿
- 8 関係者向け進行表
- 9 受講者向けアンケート票（受講終了後）

1 募集要項（例）

※本募集要項は、平成25年度に千葉県主催で本研修を行った際のものの一部改変したものです。

多職種協働研修募集要項（案）

1 趣旨

高齢化の進行とともに、認知症の人も大幅に増加することが見込まれます。認知症は、疾患の進行とともに、症状やケアのニーズが大きく変化していきますので、医療や介護、福祉等に関わる様々な職種が、必要な情報を共有し、適切な役割分担のもと、御本人や御家族の生活全体を支えていくことが必要です。

そこで、連携構築のための「場」と「機会」を提供することにより、多職種が顔を合わせ、お互いの役割等を理解し、課題を共有して、多職種協働を促進することを目的に開催いたします。

2 受講対象者

以下の（1）及び（2）の要件を満たす方

- （1）〇〇市町村において、認知症の人と家族の支援に携わっている専門職、行政関係者等

※受講に当たっては、御自身の職種に求められる認知症の治療やケアに関する基本的知識等について習得していることを原則とします。

- （2）すべての課目の受講が可能と見込まれること。

3 研修日程及び会場

平成〇年〇月〇〇日（〇曜日）時間

会場 〇〇〇〇（会場住所）

4 定員

〇〇人

※お申し込みについて、定員を超える又は職種に偏りがある場合は、職種のバランス等を考慮の上、選定します。

5 プログラム

別紙のとおり

6 受講料

無料又は資料代〇〇円など

7 申込方法及び期限

所定の申込書（別記様式1）に記入の上、下記申込先に郵送、ファクシミリ送付又は御持参ください。

〇〇〇市〇〇〇課

住所：

電話：

FAX：

申込締切日：〇月〇日（〇）まで

※定員を満たさない場合、職種に偏りのある場合は、引き続き募集を行う場合があります。

※受講の可否について、研修実施日の2週間前までにお知らせします。

8 問い合わせ先：開催機関名

TEL：

FAX：

E-mail：

○委託する場合

委託先

TEL：

FAX：

E-mail：

※本研修の運営は、〇〇に委託して実施しています。

認知症多職種協働研修 参加者募集

高齢化の進行とともに、認知症の人も、大幅に増加することが見込まれます。

認知症は、疾患の進行とともに、症状やケアのニーズが大きく変化していきますので、医療や介護、福祉等に関わる様々な職種が、必要な情報を共有し、適切な役割分担のもと、御本人や御家族の生活全体を支えていくことが必要です。

この度、多職種協働について学んでいただくとともに、「**顔の見える関係づくり**」の機会として、「**認知症多職種協働研修**」を実施します。積極的に御参加ください。

1. 開催日程・会場・募集定員

日程	会場	定員
○月○日（○曜日） 9：30～16：00	会場名 住所：○○○○	50名

2. 対象者

①○○市町村で、認知症の人と家族の支援に携わっている専門職、行政関係者等の方

②オベアの課目の受講が可能と見込まれる方 ※①②の両方を満たす方

3. プログラム

9:30～10:00	開講式、オリエンテーション
10:00～10:50	【講義】医療との関係 (認知症の発症から終末期にかけて、医療職が関わるそれぞれの場面と円滑な医療の提供)
10:50～11:00	【休憩】
11:00～11:50	【講義】生活支援 (認知症の人と家族の生活や生き方を支える社会資源の理解と自律性の保障)
11:50～13:00	【昼食・休憩】
13:00～14:15	【グループワーク】 連携のあり方 (事例に基づく連携方法の確認)
14:15～14:30	【休憩】
14:30～15:30	【グループワーク】 連携のあり方 (事例に基づく連携方法の確認)
15:30～16:00	【グループワーク発表・まとめ】閉講式

4. 申込方法

裏面の申込書に記入の上、担当窓口（下記）に郵送、ファクシミリ送付

又は御持参ください。

○○市町村○○課○○係 〒○○○-○○○ 住所名

電話:○○○ FAX:○○○

問い合わせ：開催機関名 連絡先 TEL：○○○



オレンジリング
チーバくん

3 受講申込書

多職種協働研修受講申込書

開催機関の長 様

下記のとおり申し込みます。

年 月 日

氏名	(ふりがな)	職種	
所	名称・部署	その他の認知症支援に関わる資格	
	所在地		
属	連絡先 電話： FAX： メールアドレス：	認知症支援の経験年数 (平成〇年〇月末日現在) 年 月 日	
① 受講の動機、様々な専門職との連携の中で考えていること			
② 認知症支援に関する日常業務の内容・頻度			
③ 研修に期待すること			
④ 認知症の人と家族への支援の中で考えていること			

○当日配布する受講者名簿について

※本研修においては、研修後の多職種間の連携の一助とするため、受講者に、上記の氏名、所属先名称（部署）、職種を記載した受講者名簿を配布する予定です。名簿の配布に支障のある場合は、以下に御記載ください。

【 氏名・ 所属先（部署）・ 職種 】の配布に同意しない ※該当するものに○をお願いします。

※提供いただいた個人情報は、研修に関する以外には使用いたしません。

4 受講決定通知書（受講者宛て）

○ ○ ○ 号
平 成 年 月 日

氏 名 様

○ ○ ○ ○ 長
(公印省略)

多職種協働研修の受講決定について

このたびは、多職種協働研修に受講申込みをいただきありがとうございます。

研修は、下記のとおり実施いたしますので、御確認の上、出席くださるようお願いいたします。

記

1 日 時 平成○年○月○日 (○) 午前9時30分～午後4時00分
(受付時間 午前9時～)

2 場 所 ○○○ ○階 ○○○
(○○市町村○○○)

※会場は、駐車場に制限がありますので、なるべく公共交通機関の御利用
または乗り合わせ等で来所くださるよう御協力お願いいたします。

3 座 席 グループワークを行うため、当日座席を指定します。

4 持参いただくもの 受講決定通知書

5 その他 (1) 館内は禁煙となっております。御了承願います。

(2) 休憩時のお弁当、お飲み物等軽食につきましては会場内で飲食いただけ
ます。

(3) 欠席される場合は、事前（平日の9時～17時、当日の場合は、8時30
分以降）に○○○センターまで連絡願います。

(電話：××-○○○-○○○○、FAX：××-○○○-○○○○)

担当所属先
担当者氏名
TEL 番号/FAX 番号

多職種協働研修プログラム

時 間	内 容	講 師
9:30~10:00	開講 主催者挨拶 ○○○課 ○○○ 1 オリエンテーション	講師： ○○ ○○ 氏
10:00~10:50	2 医療との関係（講義） 認知症の発症から終末期にかけて、医療職が関わるそれぞれの場面と円滑な医療の提供 <習得目標> ① かかりつけ医・サポート医・専門医（認知症疾患医療センター）の役割と連携について理解する ② 入院期における多職種協働について学ぶ ③ 地域その人らしさを尊重した看取り ④ 生活期における医療の関わりについて理解する ⑤ 歯科的な介入は、初期（発見時）に重要となることを理解する ⑥ 服薬管理と服薬支援	講師： 所属先 ○○ ○○ 氏
10:50~11:00	休憩	
11:00~11:50	3 生活支援（講義） 認知症の人と家族の生活や生き方を支える社会資源の理解と自律性の保障 <習得目標> ① 認知症の人本人に合わせた適切なケアの視点について理解する ② 地域における本人を支える専門職の役割や社会資源について学ぶ ③ 家族支援と専門職等の関わりについて学ぶ	講師： 所属先 ○○ ○○ 氏
11:50~13:00	昼食	※事例は、昼休みによく読んでおきましょう。
13:00~14:15	4 連携のあり方（グループワーク） ○ 事例に基づく連携方法の確認 <習得目標> 事例を通し、連携のための情報共有の方法、地域連携に必要な公的制度の活用、本人や家族を中心とした連携等、具体的な連携方法を学ぶ。 グループワーク（前半）	講師： 所属先 ○○ ○○ 氏 ティーチングアシスタント（ファシリテーター）：

14:15~14:30	休憩	〇〇 〇〇 氏
14:30~15:30	グループワーク（後半）	〇〇 〇〇 氏
15:30~16:00	各グループ発表・全体のまとめ	〇〇 〇〇 氏
	評価（1日の振り返り、アンケート） 閉講	〇〇 〇〇 氏

多職種協働研修 次第

日 時 平成 年 月 日 ()
場 所

1 日 程

- | | |
|-------------------------|---------------|
| 受付開始 | 9時00分～ |
| (1) 開 講 | 9時30分～ |
| 主催者挨拶 | |
| オリエンテーション | |
| (2) 医療との関係 | 10時00分～ |
| 所属先 | |
| 〇〇 〇〇 様 | |
| 休 憩 | 10時50分～11時00分 |
| (3) 生活支援 | 11時00分～ |
| 所属先 | |
| 〇〇 〇〇 様 | |
| 昼休み休憩 | 11時50分～13時00分 |
| (4) 連携のあり方 | |
| ○事例に基づく連携方法の確認 | 13時00分～ |
| 所属先 | |
| 〇〇 〇〇 様 | |
| (5) 評 価 (1日の振り返り、アンケート) | |
| (6) 閉 講 | 16時00分 |

7 受講者名簿

多職種協働研修受講者名簿				
			平成 年 月 日	
	氏名	所属先	場所	職種
				グループ
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
31				
32				
33				
34				
35				
36				
37				
38				
39				
40				
41				
42				
43				
44				
45				
46				
47				
48				
49				
50				

8 関係者向け進行表

時間 (案)	プログラム	準備等	講師等への対応
8 : 0 0		○集合 (事務局) 会場 : ○階○○ ○机・いすの配置、 受付準備、配布資料の確認 (教材資料類、次第、座席表、 名簿、アンケート) 会場案内看板 必要時、駐車場係 ○プロジェクター、パソコン、 レーザーポインター、 教材パワーポイントの準備	講師控え室 : あり・なし ○講師・ティーチング アシスタント到着、接 待 ○講師・ティーチング アシスタント到着後、 講師控え室で、打ち合 わせの実施。
9 : 0 0	受付開始	受付開始 (グループ分け、名札、 資料等配布) 受付担当 ()	
9 : 3 0	開講 あいさつ 【オリエンテーション】	司会進行役 () 挨拶 () オリエンテーション・研修目的 の説明 ()	
1 0 : 0 0 ～	【医療との関係】 講師 :	講師・ファシリテーター紹介 ()	
1 0 : 5 0	休憩		
1 1 : 0 0 ～	【生活支援】 講師 :		
1 1 : 5 0 ～	～昼食・休憩～	○講義終了後、昼休みに、事例 の配布、読んでおいてもらう。	
1 3 : 0 0 ～	【連携のあり方】 講師 : ファシリテーター : (1) 自己紹介 (15 分間) (2) -1 グループワーク	○使用物品準備 ワークシート類	講師・ティーチングア シスタント (ファシリ テーター) 謝金・交通 費支払い
1 4 : 1 5 ～	事例に基づく連携方法の確認 休憩		
1 4 : 3 0 ～	(2) -2 グループワーク 各グループ発表・全体のまとめ		
1 5 : 3 0 ～	評価 (アンケートの記入のお願い)	○アンケート回収 ○会場の片付け	反省会 : 司会進行役 : () 書記 :
1 6 : 0 0	閉講 講師関係者等反省会	○終了後後片付け	

9 受講者用アンケート

認知症多職種協働研修アンケート（全体終了後）

～アンケートの回答についてのお願い～

- ・アンケートの結果は、今後の研修のあり方を検証していくために参考にさせていただく以外には使用いたしません。
- ・データは、〇〇〇及び業務委託先である〇〇〇で管理をいたします。
- ・今後も継続して効果的な形で多職種協働研修を開催していくためにはどのようなことが必要なのかを念頭において御回答いただければ幸いです。

問1 本研修にどのようなお立場で参加されましたか。

※該当するところに○を御記入ください。職種について複数に該当する方は、日常の業務と関係がある職種をひとつ選んでください。

所属先：①地域包括支援センター②居宅介護支援事業所③居宅介護事業所

④介護施設（特別養護老人ホーム、老人保健施設等）⑤グループホーム

⑥医療機関（病院・診療所）⑦歯科医療機関⑧訪問看護ステーション⑨薬局

⑩行政機関（地域包括支援センターを除く）⑪その他（ ）

職種：①医師②歯科医師③薬剤師④看護職⑤保健師⑥介護支援専門員⑦社会福祉士⑧介護職（介護福祉士・ヘルパー等）⑨理学療法士⑩作業療法士⑪言語聴覚士⑫精神保健福祉士⑬臨床心理士（心理職）⑭その他（ ）

認知症支援についての経験年数：①1年未満②1年～3年③3年～5年④5年～10年

⑤10年～15年⑥15年～20年⑦20年以上

問2 研修全般に関する各質問に御回答をお願いいたします。

(1) あなたの参加満足度について、該当するものに○を御記入ください。

①非常に不満足	②不満足	③普通	④満足	⑤非常に満足
---------	------	-----	-----	--------

(2) 研修に参加されて、現場で活用できる顔の見える関係づくりに役立ちましたか。

該当するものに○を御記入ください。

①全く役立たなかった	②あまり役立たなかった	③普通	④まあまあ役立った	⑤とても役立った
------------	-------------	-----	-----------	----------

(3) ①と②に○を付けた方にお聞きします。

研修にどのような内容を盛り込めば関係づくりに役立つと思いますか。

(4) 開催時期は、いつ頃がよいですか。該当するものに○を御記入ください。（複数回答可）

①春（4月～6月）	②夏（7月～8月）	③秋（9月～12月）	④冬（1月～3月）	⑤その他（ ）
-----------	-----------	------------	-----------	---------

(5) -1 開催曜日はいかがでしたか。該当するものに○を御記入ください。

①良くない	②あまり良くない	③良かった	④まあまあ良かった	⑤とても良い
-------	----------	-------	-----------	--------

(5) - 2 ①と②に○を付けた方にお聞きします。参加しやすい曜日は何曜日ですか。

【

(6) - 1 このプログラム全体は、『医療との関係』分野、『生活支援』分野、『連携のあり方』分野で構成されています。各分野のバランスはいかがでしたか。

該当するところに○を御記入ください。

①良くない	②あまり良くない	③普通	④まあまあ良かった	⑤とても良い
-------	----------	-----	-----------	--------

(6) - 2 ①と②に○をした方にお聞きします。どのように構成されているとよいと考えますか。

問3 募集方法について、御意見がありましたら御記入ください。

問4 研修全般に関する意見・感想等ありましたら自由に御記入ください。

問5 地域において多職種連携を進めていくために、提案・意見がありましたら自由に御記入ください。

☆御協力どうもありがとうございました。

10 本研修の作成経過等

保健・医療、介護・福祉の専門家や家族、行政職員で構成されている「千葉県認知症対策推進協議会」（以下「推進協議会」という。）の下に、「認知症専門職研修作業部会」（以下「作業部会」という。）を設置、多職種協働による支援体制の構築に向けた人材育成のあり方、研修体系及び研修プログラムについて具体的に検討をいただく「認知症専門職研修作業部会ワーキンググループ」（以下「ワーキンググループ」という。）を設置し、平成24年度から取組を開始しました。

平成24年度に、研修プログラムを作成し、25年度に3市町でモデル研修を実施、実施後のアンケート、反省会等を踏まえて、推進協議会や作業部会、ワーキンググループの御意見を取り入れながら、プログラムを修正し、研修で実際に使用する教材（パワーポイント）を作成しました。

【推進協議会及び作業部会、ワーキンググループ】

- 平成24年度
 - 推進協議会 2回
 - 作業部会 3回
 - ワーキンググループ 5回
- 平成25年度
 - 推進協議会 1回
 - 作業部会 2回
 - ワーキンググループ 4回

【モデル研修実施市町】

- 鴨川市（平成25年 9月22日実施）
- 浦安市（平成25年10月14日実施）
- 多古町（平成25年11月17日実施）

平成25年度千葉県認知症対策推進協議会 名簿 (H26.3.31現在)

	氏名	所属団体・役職	
会長	伊豫 雅臣	千葉大学大学院医学研究院	教授
副会長	植松 多恵子	認知症のひとと家族の会千葉県支部	世話人
"	助川 未枝保	千葉県主任介護支援専門員ネットワーク	理事長
委員	旭 俊臣	旭神経内科リハビリテーション病院	院長
"	畔上 加代子	千葉県在宅サービス事業者協議会	会長
"	岩崎 弘一	千葉県精神神経科診療所協会	理事
"	宇井 訓子	千葉県ホームヘルパー協議会	監事
"	海村 孝子	千葉県医師会	理事
"	梶原 栄治	千葉県高齢者福祉施設協会	研修委員会委員長
"	梶原 優	日本病院会	副会長
"	川上 浩嗣	千葉県社会福祉協議会	副部長
"	木村 章	日本精神科病院協会千葉県支部	支部長
"	小林 繁樹	千葉県救急医療センター	センター長
"	権平 くみ子	千葉県訪問看護ステーション連絡協議会	会長
"	佐藤 茂樹	成田赤十字病院	精神神経科部長
"	鈴木 健彦	千葉県健康福祉部	保健医療担当部長
"	染野 貴寛	千葉県社会福祉士会	副会長
"	高橋 章博	千葉県地域包括・在宅介護支援センター協会	理事
"	土屋 宏子	佐倉市(高齢者福祉課)	主査
"	西 ケイ子	千葉県介護支援専門員協議会	副理事長
"	野口 渉子	千葉県介護福祉士会	副会長
"	平山 登志夫	千葉県老人保健施設協議会	会長
"	福原 秀夫	袖ヶ浦市(高齢者支援課)	室長
"	細井 尚人	袖ヶ浦さつき台病院	認知症疾患医療センター長
"	松尾 徳子	佐倉市(佐倉地域包括支援センター)	管理者
"	松田 一郎	千葉県歯科医師会	理事
"	眞鍋 知史	千葉県薬剤師会	副会長
"	三島木 和香子	ちば地域密着ケア協議会	理事
"	村田 純子	千葉県看護協会	認知症看護認定看護師
			(50音順)

平成25年度千葉県認知症対策推進協議会			
認知症専門職研修作業部会 名簿			(H26.3.31現在)
	氏名	所属団体・役職	
部会長	旭 俊臣	旭神経内科・リハビリテーション病院	院長
委員	植松 多恵子	認知症のひとと家族の会千葉県支部	世話人
〃	海村 孝子	千葉県医師会	理事
〃	塩路 直子	千葉県医療社会事業協会	
〃	助川 未枝保	千葉県主任介護支援専門員ネットワーク	理事長
〃	鈴木 健彦	千葉県健康福祉部	保健医療担当部長
〃	諏訪 さゆり	千葉大学大学院看護学研究科	教授
〃	染野 貴寛	千葉県社会福祉士会	副会長
〃	土橋 正彦	千葉県医師会	副会長
〃	西 ケイ子	千葉県介護支援専門員連絡協議会	副理事長
〃	橋谷 充助	千葉県作業療法士会	副会長
〃	細井 尚人	袖ヶ浦さつき台病院	認知症疾患医療センター長
〃	松尾 徳子	佐倉地域包括支援センター	管理者
〃	松川 基宏	千葉県理学療法士会	理事
〃	松田 一郎	千葉県歯科医師会	理事
〃	眞鍋 知史	千葉県薬剤師会	副会長
〃	宮島 光	千葉県精神保健福祉士協会	
〃	村越 洋子	千葉県介護福祉士会	理事
〃	村田 純子	千葉県看護協会	認知症看護認定看護師
〃	森本 浩司	千葉県医師会	理事
			(50音順)

平成25年度千葉県認知症対策推進協議会			
認知症専門職研修作業部会ワーキンググループ 名簿			(H26.3.31現在)
	氏名	所属団体・役職	
委員	上田 知成	千葉県理学療法士会	渉外部長
〃	海村 孝子	千葉県医師会	理事
〃	佐々木 香	千葉県看護協会	認知症認定看護師
会長	助川 未枝保	千葉県主任介護支援専門員ネットワーク	理事長
委員	須田 仁	千葉県社会福祉士会	—
〃	中川 恵子	千葉県医療社会事業協会	—
〃	西 ケイ子	千葉県介護支援専門員協議会	副理事長
〃	橋谷 充助	千葉県作業療法士会	副会長
〃	広岡 成子	認知症のひとと家族の会千葉県支部	代表
〃	松尾 徳子	佐倉地域包括支援センター	管理者
〃	松田 一郎	千葉県歯科医師会	理事
〃	眞鍋 知史	千葉県薬剤師会	副会長
〃	宮島 光	千葉県精神保健福祉士協会	—
〃	村越 洋子	千葉県介護福祉士会	理事
			(50音順)

教 材